

平成26年度 農畜産物生産者大会

特集

平成26年度 JAあきた白神農畜産物生産者大会

複合経営化のさらなる推進と、

農業振興による地域経済の安定を目指す



JAあきた白神（佐藤謙悦組合長）と青果物振興連絡協議会（山谷初男会長）による、平成26年度農畜産物生産者大会が2月20日、能代市のプラザ都で開催され、優良生産者の表彰や販売実績、平成27年度の計画が報告されたほか、農畜産物の生産振興に向けた大会宣言が採択されました。

同大会には、生産者やJA・市場関係者など約200名が参加。はじめに佐藤組合長が「複合経営を一層推進し、農業振興による地域経済の安定的な発展に貢献するため、白神農畜産物の名声をアピールし、安全・安心な農畜産物の生産に取り組みたい。また、生産拡大と信頼の向上を図るとともに、基幹産業である農業の発展と、後継者が安心して就農可能な所得の確保の早期実現を目指し、全力で取り組んでいく。」と挨拶しました。

得の確保・向上に努めたい。また、生産者同士の情報交換や助け合いにより、技術向上と経営体質の強化を図っていきたい。」と今後に向けて抱負を語りました。

続いて山谷会長が、「米の概算金の下落をはじめ、厳しい農業情勢ではあるが品質の高い生産で所

平成26年度の販売実績見込みは、45億1400万円の販売額を見込んでいます。また、平成27年度の販売計画では、農畜産物販売高47億1845万円達成を目指し、天候に左右されない生産技術の確立により有利販売を勝ち取り、行政と一体となり消費者が求める安全安心な産地づくりに務めることを大会宣言し、満場一致で採択されました。



▲生産者の力を合わせ、技術向上と白神ブランドの向上の必要性について話す山谷会長



▲計画達成に向けた大会宣言を読み上げる、大豆生産組合長橋組合長